

【3日目】8/16 ・タスマニア大学講演 ・市内フィールドワーク

9時にホテルを出発し、徒歩でタスマニア大学(UTAS)まで向かった。タスマニア大学(UTAS)では、先ずピーター教授の極地研究に関するレクチャーをいただき、次に、タスマニア大学の研究員(北海道大学助教)福田氏から、ホバートでの生活についてのレクチャーをいただいた。そして11時に、タスマニア大学の学生がアシスタントとして来ていただき、自己紹介と研究概要の説明後、市内へ街頭調査に向かった。街頭調査は、サラマンカのレストラン街前広場と市内中心部ショッピングセンター付近の2ヶ所で行った。生徒は準備していたアンケート用スケッチブックやお礼の折り紙などを駆使して臆することなく挑戦し、1グループで約20~50人からの回答を得た。「皆優しく答えてくれた。」「英語が通じてうれしかった」などと語り、初めての海外街頭インタビューが成功したことに手応えを感じた。

〔生徒感想〕

- ・福田さんのプレゼンで、タスマニアでの生活に関するお話を聞き住みやすそうなところだと感じた。
- ・なかなか自分から積極的にインタビューできず、結果的に人数が少なくなってしまった。また、声をかけても気がつかずに通過ぎてしまった人もいて、もっとはっきりしゃべらなければいけないと感じた。
- ・街頭インタビューは、初めは緊張していたけれど25人でできて良かったと思う。大学生アシスタントと移動中、会話は英会話の練習になってよかったです。あたってくださいの勇気がつきました。
- ・フィールドワークではUTASの学生が明るく優しくいろいろなことを話してくれて、コミュニケーションの楽しさを感じることができた。インタビューも多くの人が快く答えてくださり、段々積極的にアプローチできるようになった。



タスマニア大学前のバス停



タスマニア大学の校舎



アシスタントの学生と打ち合わせ



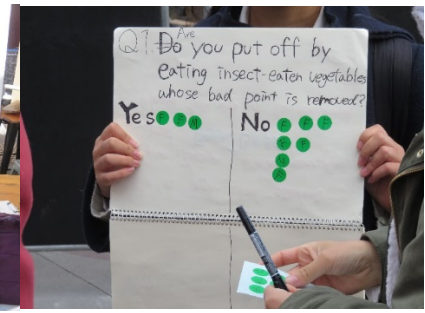
ピーター先生からのレクチャー



徒歩で街頭調査へ



優しく答えてくれる人も沢山



インタビューグッズの例

【4日目】8/17 ・タスマニア大学での発表 ・研究室訪問

前日同様、9時にホテルを出発し、午前中は前夜のうちにまとめた調査結果を踏まえたプレゼンを行う。聴衆はピーター先生と2名の研究員、前日にお世話になったアシスタント学生5名。質疑応答では、ピーター先生や藤田研究員からかなり鋭い質問やアドバイスをいただき、生徒たちは英語でのやりとりにも苦勞しながらも何とかこなすことができた。最後に、ピーター先生からお褒めの言葉をいただいた。学内でランチをとった後、自動車開発のLabを見学させていただいた。

〔生徒感想〕

- 言語が違うだけで自分はこんなに緊張してしまうのかという発見があった。
- プレゼンが口ごもって「えー」とか言ってリズム良くできなかったのも、相手に伝わっているかも心配ですし、できなくてくやしかったです。これからプレゼンでは本気で伝えたいと思うよう頑張ります。
- プレゼンのフィードバックがいつも活発で、みんなが必ず自分の意見を発信していて良いと思った。日本(一高)で同じ事をしてこんな感じにはならないと思うので、せめてSGHだけでも自分の意見をみんなが言える雰囲気にして自分も実践していこうと思います。
- 自分なりに準備をきちんと行ったが、人の前に立って話をするのは難しく、緊張して内容を忘れてしまった。また、プレゼン中に少し止まってしまう時間があったので、もっと準備をして場数を踏んでGBICに向けて練習したい。
- 今日指摘されたのは、発表中にフラフラしすぎということだ。自信のなさをそこにだすな、と言われた。自分的にはそんなに動いているつもりはなかったので、他人にプレゼンを見てもらうのも大切なのだとわかった。
- 研究室訪問では、大学生の説明がほとんど聞き取れなくてくやしかったです。現地の方が普段話す英語のスピードでも聞き取れるようになりたいです。

得られたことはとても嬉しく思う。